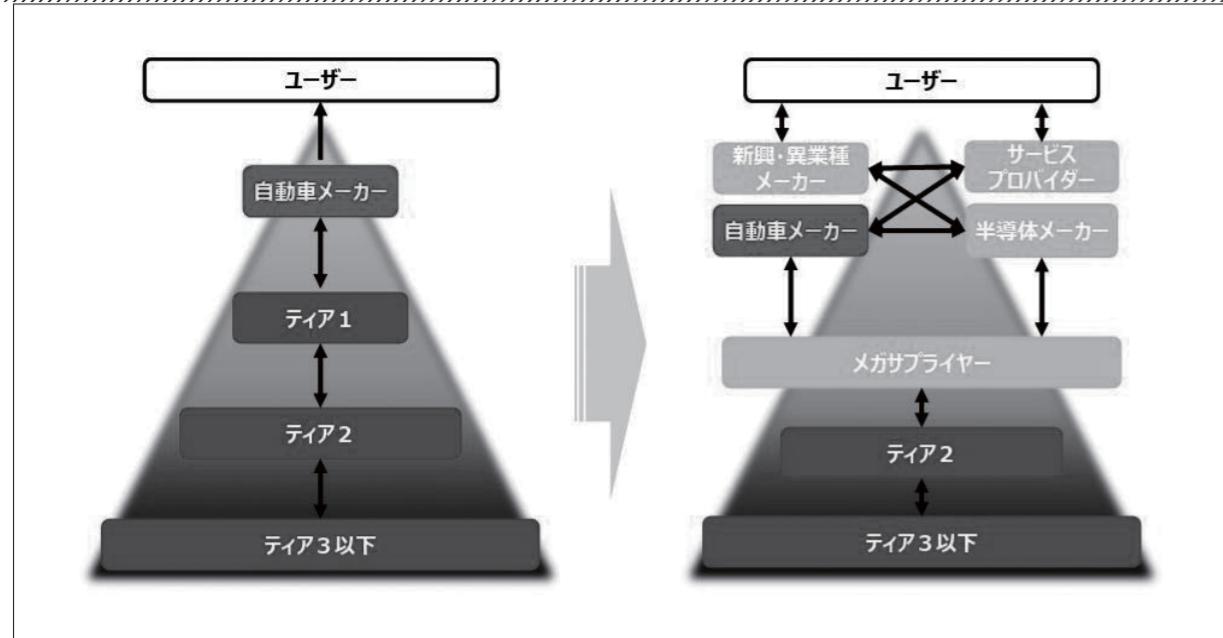


2026年新春特集 自動車部品・新技術・新素材

「アレの日本は一夕一夜の間に
変革」と話す（経済産業省資料）



競争と淘汰



台湾・ヤゲオが着目
した芝浦電子のサー
ミスター

再編の軸は「資本」「技術」へ

なお続く激しい変革の波

日本の中堅企業 海外からは「割安」

自動車部品業界が転換期を迎えており、一氣呵成に進んだ電動化やソフトウエア・デファインド・ビーカー（SDV）関連投資の揺り戻し、人工知能（AI）の普及、そして“ドランプ関税”に象徴

される地政学リスクの高まりなどが同時進行する中で、かつての系列取引や株式持ち合いを前提とした構造が揺らぎ、「資本」「技術」を軸とする再編が顕在化している。

揺らぐピラミッド構造のサプライチェーン

こうした動きの背景について、資本市場に詳しい早稲田大学ビジネススクールの平野正雄教授は、「日本は低金利が続き、

優良な中堅企業が多いと
いう点で、世界的にも特
異な市場だ」と指摘す
る。金利上昇でM&A
(企業の合併・買収)が
停滞しがちな米国とは対
照的に、日本では事業再
編やスピアアウト、子会
社売却が投資機会として
注目されているという。
平野教授は「日本の中
堅企業は、安に見える」とも付け加
えた。多額の現金を抱
え、成長投資や経営改革
に踏み切れていない企業
は「アンダーバリュー
(割安)でアンダーマネ
ージ(十分に経営されて
いない)」と見なされ、
アクティビストやファン
ドの標的になりやすいと
根本的には企業価値
が認められ、資本市場から認
める経営を示せるか
われる」と平野教授
は語る。一方で、度な防衛は、かえつ
て長戦略の不在を印象
づけかねないという。
業界再編の動きは
も続く見通しだ。住
友重機械による住友理
気工業による完全子会社化、N

A black and white photograph of a factory interior, likely a transmission assembly plant. The scene is filled with large, rectangular metal frames stacked high on both sides, each containing multiple mechanical components. A worker in a high-visibility vest and hard hat is operating a white forklift with 'UNI CARRIERS' branding, positioned in the center aisle between the stacks. The ceiling is dark with visible structural beams and overhead lighting. The floor is a polished concrete surface with white safety lines marking the aisle.

価値が問 改。過 て成 家づけ
は今後 住友電 工の 建工の NEC
子会 不には 動 渡な 渡す 値を高

コスト競争力に優れる電動車で台頭している。自動車政策の見直しが進み、今後の動向次第ではさらなるリストラを迫られる可能性もある。

強固なピラミッド構造が揺らぎ、サプライチェーン（供給網）が再構築される中で、自動車部品各社は資本市場と技術革新の双方に向き合う必要がある。さまざまな競争軸にどう適応していくのか。その選択が、2026年以降の生き残りを左右する。

海外でも変革の波は激しい。独コンチネンタルは昨年、車載部門を「モビオ」として切り出し、産業部門も近く分離してタイヤ専業になる。独ロバート・ボッシュや仮ヴァレオなども構造改革を進めている。昨年には米自動車部品大手、フォースト・ブランズが経営破たん。これらの背景には、過大な電動化や知能化投資の影響も少なからずある。ヴァレオのクリストフ・ペリヤCEO（最高経営責任者）は取材に、自動車産業の現状について「ダーウィン的な変革」と語り、競争と淘汰が進む中で大規模な構造改革が不可欠だとの認識を示した。

EVシフト停滞に
加え中国勢台頭
完成車メーカーがサプライヤーとの距離感を再考する流れもうかがわれる。

日本自動車部品工業会
中日本支部
支 部 長 相 羽 繁 生
名古屋市東区武平町五丁目一番地
名古屋栄ビルディング七階
電 話 ○五二(九七)五三三〇(代表)

A black and white photograph of a dense urban city skyline, featuring numerous skyscrapers and buildings, serving as the background for the Denso advertisement.

だから、
デンソーがいる。

卷之二十一

卷一 國際化社會

デンソーは、あらゆるパートナーとともに
でまかないだらけの世界を変えていきます



ずっと広がる未来のために
なぜ
Why?
JTEKT が必要なのか。

その先にある シアワセ を創り出すために。
技術をつなぎ、地球と働くすべての人を笑顔にする会社だから。

私たちのよろこびは、「貢献」から生まれる。
JTEKTはモノづくりとモノづくり設備をお客様に貢献してきました。これからも課題に目を向け、製品やサービスを通じて解決策となるソリューションを提供していきます。

JTEKT
Check the Movie

Niterra の使命

今できる技術も、未知の領域への挑戦も。
Niterra日本特殊陶業は「モビリティの未来を輝かせる」新たな価値の創造と技術革新を続けていきます。

Niterra
日本特殊陶業
<https://www.niterragroup.com>



やってみたら…
アイシンで技術戦略を担当する山本義久取締役は「技術が進化する中で開発のスピード感が力がいる。自社だけでは難しいケースも出てきており、最終製品になるまでは他社との協業も求められている。自動車メカとも同様で、言われたものをつくるのではなく、共同開発の形をとることが増えてきた」と話す。

協業で自立つながりの強みを掛け合わせた製品開発だ。アルプスアルパインはIVI（インバーフィン・インフォテインメント）技術を生かし、車載計器の日本精機とデジタルキャビン関連製品

開発スピードアップ「化学反応」に期待

失敗恐れるより「挑戦」に価値

強み掛け合わせ今までにないものを

△

急速に進展する電動化や知能化を背景に、サプライヤー各社で協業機運が高まる。日本の自動車産業は、緻密（ちみつ）な「すり合わせ」を伴う垂直統合型のものづくりで世界をリードしてきた。しかし、デジタル技術の普及や中国勢などの台頭で、開発のスピードアップやイノベーションが求められている。閉じたサプライチェーン（供給網）や自前主義から脱却し、オープンイノベーションによる社内外の「化学反応」に各社は活路を見い出す。

製品を開発。日系自動車メーカーからの受注が決まりから、日本特殊陶業は昨年2月、実証施設「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業する。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメなもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメなもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメなもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメなもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメなもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメなもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメのもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメのもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメのもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

日本ガイシも共創施設「NGKコラボレーションスクエア」を昨年7月に新設

「早くやつてダメのもの

は早く手を引く」と、協業の要諦を説き「今まで

では企画書をつくりた

り、あれこれ迷ったりして

ていたのが「まず1回やつてみたらどう?」とい

う意識に変わってきた」と手応えを語る。

△

指し、拠点を整備する動きも広がる。日本特殊陶業は昨年2月、実証施設

「水素の森ハブ」を新設した。水素エンジンの研

究開発を手掛けけるiLab（アイラボ）などが

入居し、点火プラグやセンサーの開発で協業す

る。

